

特集にあたって[†]

猪原 正守*

1. はじめに

企業は、ユーザーの多様化するニーズに合致する機能や性能を持った魅力ある製品やサービス提供の設計・生産・販売・サービスへの的確な対応によって、その事業基盤を構築してきた。しかし、新興工業国の台頭による新市場展開に伴うさらなる企業活動のグローバル化によるグローバルな国・地域における企業活動の透明性・公正性に対応できる人材の育成とリスクマネジメントの強化に加え、企業活動全般における低炭素化・省エネ化などへの要求に代表される地球環境問題への対応が緊急の課題となっている。この課題を克服するためには地球規模での対応を要求され、環境サミットを中心として政治・経済・社会のあらゆる場面での取り組みを必要とするものであって、個々の企業における取り組みのみで解決できる課題ではない。そのため、「南北問題」を超えた国際協業の取り組みが要請され、グローバル企業の果たすべき役割はますます大きくなっている。

こうした国際社会の動向に対応するため、多くの企業は、その経営戦略の重点課題として「環境経営」を取り上げている。特に、売上高の50%超を海外市場に依存する企業の多くは、経営活動全般を通じた「環境」と「品質」の同時実現を競争優位要因と位置づけている。しかし、この課題の達成においては、「環境」

と「品質・原価・納期」を同時に達成するという高次の難題解決が必須であることに加えて、設計・調達・生産・物流・販売・サービスのそれぞれの活動分野における部分最適ではなく、製品の設計～生産～使用～廃却・再利用のあらゆる段階を通じた全体最適が要請される。

この特集では、企業が直面する重点課題の解決に至る「環境経営の考え方と品質経営の手段」を探るべく、これまでに品質・原価・納期の同時実現を品質第一の経営によって実現してきたエクセレント企業が、「どのような考え方で、どのような課題を明確化し、どのようにして課題解決を図っているか」を特集した。

2. 掲載論文の紹介

特集「環境経営と品質」は、企業がその企業経営において環境と品質の全体最適化と融合化をどのような視点から、どのようにして実現しているか、あるいは実現しようとしているかを明らかにすることを狙っている。その趣旨から以下に掲載された原稿の簡単な紹介を与える。

(1) 総論「品質および環境経営の融合とその最適化」:

この分野における国際的なリーダーである吉澤正先生(筑波大学名誉教授)にお願いして、環境経営の発展の歴史を総括し、環境経営と品質経営の融合しつつある関係を三つの視点(環境にやさしいモノづくり、各種マネジメントシステムの融合、社会的責任)から論じていただいた。

[†]平成22年11月26日 受付

*大阪電気通信大学 情報通信工学部情報工学科
連絡先: 〒572-8530 大阪府寝屋川市初町18-8(勤務先)

(2) 「水と生きる サントリー」環境の取り組み」:

経営の基本理念である「人と自然と響き合う」の実現、すなわち、地球環境と人類社会との持続可能な共存に寄与するとの視点から、2005年に策定されたコーポレートメッセージ「水と生きるサントリー」を企業の社会的責任活動の中心に据えた、文化・社会貢献活動、コミュニケーション活動、品質保証活動、コンプライアンス推進活動と環境対応の現状と課題について論じていただいた。

(3) 「積水化学グループにおける環境経営への取り組み」:

2030年を目指したグループ全体における製品・事業・サービスを通じた地球環境への負荷低減、特にCO₂や廃却物の低減における活動、カーボンマイナスの実現と生物多様性の保全に対する取り組みの現状と課題について論じていただいた。

(4) 「パナソニックの環境経営」:

「エレクトロニクス No.1 の『環境革新企業』をめざす」という2018年に迎える創業100周年の操業100周年ビジョン達成に向けた「環境貢献と事業経営の一体化」に対する取り組みの現状と課題について論じていただいた。

(5) 「関西電力グループにおける環境経営の取り組み」:

2013年3月に制定された「関西電力グループ長期成長戦略2030」の達成に向けた、「低炭素社会のメインプレーヤー」「新時代のエネルギー安定供給のパイオニア」「エネルギーと暮らしのベストパートナー」として、お客さまと社会にとってのベストソリューション追求という環境経営とグループ経営の一体化に対する取り組みの現状と課題について論じていただいた。

(6) トヨタ自動車の環境マネジメント:

クルマの開発～生産～廃却～リサイクルに至るすべての段階でCO₂をはじめとする環境負荷の低減、資源循環の推進を世界トップレベルで国内外の関連会社と一体となって取り組んでいる現状と課題について論じていただいた。

これらの総論と事例としての企業活動における現状と課題に対する論説は、「環境経営」と「品質経営」の融合・最適化を実現するうえで、「どのような視点からの、どのような活動が有効であるか」「環境と品質を真の意味で競争優位要因とするうえでそのような課題があるか」を明らかにするヒントが得られるものと期待する。